平成２６年９月

研究・技術計画学会会員各位

研究・技術計画学会 九州・中国支部

第９回研究会開催案内

拝　啓

　時下益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

　このたび、下記の要領にて、研究・技術計画学会九州・中国支部第９回研究会を開催します。今回の研究会では、半導体やテレビ産業を例にして「日本型モノづくりの敗北」を取り上げます。

参加ご希望の方は、別紙の参加申込書に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

敬　具

記

日　時：平成２６年１０月２６日（日）１４：００～１６：００

１４：００～１５：２０　講演

**演題：「日本型モノづくりの敗北」**

**講師：微細加工研究所　所長　工学博士　湯之上　隆　氏**

＜講演要旨＞

日本半導体産業は半導体メモリDRAMで世界シェア80％を占めていたが2000年に撤退した。1社残ったエルピーダはサムスン電子より技術は高いと言われていたにも関わらず2012年2月に倒産した。DRAM撤退後、日本はデジタル家電やクルマなどに使う半導体SOCに舵を切ったが、どこもかしこも赤字に陥った。特にルネサスはクルマ用半導体で世界シェア1位（40％超）なのに、倒産寸前となり産業革新機構等に買収された。かつて日本のお家芸だったテレビ産業では、デジタルテレビで世界最高画質をつくっていたはずだが、2012年3月期に、ソニー、シャープ、パナソニックの3社が合計で約1兆6000億円もの赤字を計上し、各社とも社長が交代、大規模なリストラを行っている。

上記の通り、日本半導体と電機は、世界シェア1位、世界最高品質、世界最先端の技術があったにもかかわらず、大崩壊してしまった。なぜこのようなことが起きたのだろう？　本講演では、日本半導体と電機がパラダイムシフトに対応できず、「イノベーションのジレンマ」に陥ったが故に崩壊したことを論じる。

＜講師略歴＞

 京都大学大学院 (修士課程原子核工学専攻) を修了後、日立製作所に入社。以後16年にわたり、中央研究所、半導体事業部、デバイス開発センタ、エルピーダメモリ (出向)、半導体先端テクノロジーズ (出向) にて、半導体の微細加工技術開発に従事。2000年に京都大学より工学博士を取得。

著書に日本型モノづくりの敗北 - 零戦・半導体・テレビ, 文藝春秋 (2013/10/18)

現在、半導体産業と電機産業のコンサルタントおよびジャーナリスト。微細加工研究所所長、京大原子核工学および東北大工の非常勤講師。

１５：２０～１５：３０　コメント　**立命館アジア太平洋大学　福谷　正信　教授**

１５：３０～１６：００　質疑応答　意見交換

司会：久保　元伸（山口大学大学院　技術経営研究科　教授）

**会 　場：山口大学広島教室**

〒730-0032　広島県広島市中区立町2-23　野村不動産広島ビル4F

　　　　　<http://mot.yamaguchi-u.ac.jp/access.html>

参加費用：無　料　　　　定　　員：２５名

九州・中国支部代表　福谷　正信（立命館アジア太平洋大学　教授）

　同　　　　　幹事　久保　元伸（山口大学大学院技術経営研究科　教授）

別紙

研究・技術計画学会 九州・中国支部

第９回　研究会参加申込書

研究・技術計画学会 九州・中国支部　第９回研究会に参加します。

ご氏名

ご所属・お役職

連絡先（Ｅ-mail）

参加申込書送信先：山口大学・久保元伸（kubomo@yamaguchi-u.ac.jp）

申し込み締め切り：平成２６年１０月２１日(火)17時